

第一回目の連合国対日理事会が招集された。二カ月後、六月五日にマッカーサー議長は捕虜帰還問題を議事日程にのせた。戦闘行動が終了した八月十五日の時点で（ただし、ソ連だけは戦う相手がなくなったのに九月五日まで勝手に《単独で》戦闘を続けたことになっている）、国外に在留していた日本人は六百万人であったと断定した。ポツダム宣言第九条には、日本軍は武装解除後に本国に復帰させることが明記されている。まず米国・英国・中国の支配地域全域からの復員計画が立案されたが、ソ連はこれに参加しなかった。

降伏文書調印後九カ月を経た一九四六年六月二日までに、早くも三百二十六万七千九百六十九人の「海外在留」日本人が帰国した。カナダ、ニュージーランドは捕虜を全員帰国させた。韓国、オーストラリア、ハワイ諸島からも捕虜はほぼ全員帰国した。残りの者は近いうちに本国に帰還するであろう、と対日理事会の各国代表は表明した。そう言わなかったのは、ソ連代表ジエレビヤンコ中将だけだった。

ソ連抑留者総数としては、米ヴァージニア州ノーフォークのマッカーサー將軍記念公文書館には、日本軍参謀本部の数字を引いた二百七十二万三千四百九十二人という数字がある。これは軍人数とすれば過大だ。降伏時の日本の兵力は七百万であり、満州に三百万近くもいたということはありえない。おそらく、軍人と民間人を合わせた数だろう。だが、ロシア側の専門家は、何の根拠も示さずにこれをうそと決めつけた。

しかし日本側とマッカーサーが正しかった。これを裏付けているのが、ほかならぬモロトフであり、スターリン本人なのだ。一九四六年夏にソ連にいた日本人捕虜は百一十一万六千五百五十人であったとマッカーサー公文書館の記録にあるが、まるでスターリンの秘密金庫をのぞき見たようだ。実はそこには百五万二千四百六十七人という数字が秘匿されていた。

〔アルハンゲリスキー氏はマッカーサー公文

書館の表の数字を積算し、ソ連側の数字と比べてみた。すると、二十カ所の数字のうち十五カ所の数字がソ連側の数字とわずかな違いがあるものの一一致したという。ゆえにソビエトの虜囚となった日本人市民と軍人の数は二百五十万人以上だったと推論する〕

国際世論の手前、ソ連はいつまでも国内の抑留者数を隠しておくわけにいかなかった。

もう一つの帰国者資料がある。一九五五年四月に日本側の要請でソ連側が作成したものである（表1）。

当時、日ソ交渉を推進した鳩山首相は、抑留者の早期帰還が交渉の最優先事項であると国会で言明した。ソ連側は鳩山の焦りを見抜き日本人人質を交渉カードとして十二分に活用した。彼らの目的は、対日工作の拠点としての大使館開設であり、いとも簡単に日本から略取した歴大な領土に関する係争問題の棚上げだった。抑留者カードに加え、漁業カードをちらつかされた日本側は、相手に難なくこの両目的を達成させてしまった。吉田茂は「魚屋に魚の交渉をさせる馬鹿はいない」と吐き捨てるように述べた（元東独大使新井弘一氏による）が、まさにそのようなみじめな結果となった。

マリクは、超人的な詐術を買われて駐英大使に任命された。相手の松本全権との交渉で発揮されたこの外交官のマジシャン的なだましの手口は、この表の数字にも随所に現れている。一九五〇年が引揚げの最終年となっているが、そもそもこれがすでにインチキだ。捕虜、抑留者、民間人という分類も妙だ。

いったい、正確には何人の日本人がソ連に捕虜になっていたのか？ 最終的には満州方面にいたすべての日本人の名簿を作り、帰国者名簿とつき合わせてみるほかにいだろう。そうした作業が行われない限り、以下に示すような多種多様な数字とつき合わせざるをえない。

年	引揚者数	内訳：軍事捕虜	抑留者	民間人
1946	42,979	37,114		15,865
1947	582,738	215,946	2,360	364,442
1948	289,973	175,103	1,944	112,926
1949	93,858	86,662	764	6,442
1950	7,547	5,584	1,963	
計	1,017,095	510,409	7,011	499,675

表1

しかし、私は、このうちどれが正しい数字
ここに十三種類の異なった数字がある。

⑬一、〇一七、〇九五（ソ連外務省情報、一九五五年四月）。

一九四八年十月）。

⑫六三四、一〇〇（ソ連軍参謀本部情報、

一九四七年十月以降）。

⑪ゼロ（捕虜に関する「鉄のカーテン」記

事、一九四七年七月）。

⑩六〇万（ソ連内務省のスターリンへの報

告、一九四七年七月）。

⑨約七〇万（ソ連外務省データ、一九四七

年三月）。

⑧二、七二三、四九二（日本軍参謀本部と

マッカーサー元帥のデータ）。

⑦一、〇五二、四六七（ソ連外務省データ、

一九四七年三月）。

⑥一、〇五〇、三〇一（ビション対日理事

会米代表のデータ、一九四七年三月）。

⑤三〇〇、三五五万（ソ連外務省データ、一九

四六年三月）。

④五九四、〇〇〇（ソビエト情報局の通報、

一九四五年九月）。

③五七三、九八四（ワシレフスキー元帥の

スターリンへの報告、一九四五年九月）。

②六六万三千（前線資料、一九四五年）。

①五〇万以下（一九四五年八月二十三日付

スターリンの九八八号命令）。